

## 退官によせて

市澤 要三

光陰矢の如しのことばを実感しています。昭和五十八年に信州大学教育学部に赴任して、はや二十四年が過ぎ、停年により退任いたしました。前任の東京成徳短期大学、その他の学校を含めますと四十三年間の教師生活を終えることになりました。

恩師上条信山先生との出会いは、私が高校一年の時でした。先生の御教示を願って東京教育大学に進みました。週三日もご指導いただけただけなこと、またご著書の手伝いで先生宅に泊り込んだことなど、学生の頃のことを思い出します。卒業後もご指導を受け、ご逝去後もお言葉を胸中に抱きながら励んできました。速いものです。書を専攻すること五十年になります。これからも続けることになるでしょう。

継続することは大切です。大学・大学院で学ぶことは基礎的なことです。四年や六年で終えてしまうことなく続けて研究すれば、納得できることがあります、その先も見

えてきて楽しみも感じられるようになるでしょう。そうなるためには学会に参加し、指導を受け情報を得ることが必要です。共に学び、刺激されることが発展の起爆剤となるからです。

信州大学での院生・学生の皆さんの古典研究は多種ありました。それに合わせての教材研究は私の専門領域を広げることになりました。私の作品づくりの大切な要素になっていきます。

国語科の先生方には大変お世話になりました。指導・研究に真摯に取り組まれていたお姿が思い出されます。信州大学国語教育学会が、より活性化し、発展することを願っております。

(いちざわ ようぞう 信州大学教育学部名誉教授)

市澤 要三先生 略歴

御略歴

昭和 一六年	長野県下伊那郡豊岡村に生まれる
昭和 三二年	長野県飯田高等学校入学。中村杏山先生の指導を受ける。
昭和 三四年	大東文化大学主催全国学生展 内閣総理大臣賞
昭和 三五年	東京教育大学入学
昭和 三七年	上条信山先生に師事する。
昭和 三九年	日展初入選
昭和 四二年	東京教育大学教育学部芸術学科書専攻卒業
昭和 四四年	東京成徳学園教諭
昭和 四四年	東京成徳短期大学講師
昭和 四七年	女子美術大学講師（〜四七年）
昭和 四五年	謙慎書道会展 顧問賞
昭和 四六年	東京教育大学附属中学校講師（〜五〇年）
昭和 四七年	東京教育大学講師（〜五三年）
昭和 四九年	毎日書道展 毎日賞
昭和 五〇年	謙慎書道会展 梅花賞
昭和 五一年	東京成徳短期大学助教
昭和 五一年	謙慎書道会展 梅花賞

昭和五四年	每日書道展	毎日準大賞
昭和五五年	東京成徳短期大学教授（五八年）	
昭和五五年	日展特選	
昭和五八年	信州大学教育学部助教	
昭和六二年	日展特選	
平成元年	第一回個展	於・飯田市美術博物館
	（高校卒業三〇周年記念事業）	
平成二年	信州大学教育学部教授	
平成三年	第二回個展	於・豊丘村歴史民俗資料館（豊丘村文化祭）
平成七年	長野県書道展覧会審査員	
平成八年	第二八回日展	審査員
平成九年	信濃教育会教育博物館運営委員長（現在）	
平成一三年	信州大学教育学部附属養護学校校長（一五年）	
平成一三年	市澤静山還暦書展	
平成一五年	於・東京銀座画廊美術館	
平成一五年	第三五回日展	審査員
平成一七年	信州大学教育学部図書館館長	
	信濃教育会監事	

現在 日展会員・読売書法会常任理事・謙慎書道会常任理事・書象会副理事長・  
信州大学名誉教授